

網村公御歌集 完

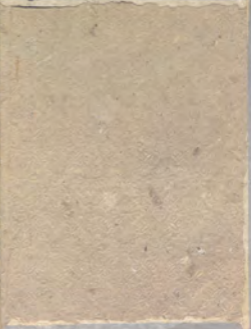
此書係由... 刊印... 凡欲購者...

此書係由... 刊印... 凡欲購者...

此書係由... 刊印... 凡欲購者...

天

此書係由... 刊印... 凡欲購者...



...

為城川陰而止者凡四支皆為山之地脉

第一支到自大光山

西為瑞巖陽德諸山後山為受石山為瑞樓

山而至大石書者前已

小光山而為茶山為大陽小陽二書者又六

天山

壇二山為瑞樓為

松島志

水故博圖書

止者四為瑞山瑞山瑞平前二支皆山而上

而者一支為北所氣

又望山西北樓渡戶村

美獲進之

後之遊者由此將以完探射自如一經諸

及矣

190

大英法蘭西

大英法蘭西

大英法蘭西

大英法蘭西

大英法蘭西

大英法蘭西

大英法蘭西

大英法蘭西

大英法蘭西

大英法蘭西

松前堂志公年形表書

貞享三年四月詠草 綱目上

○ 三月廿一日 壬午

又廿二日 乙未

○ 三月廿二日 乙未 詠草

○ 三月廿三日 丙申 詠草

○ 三月廿四日 丁酉 詠草

○ 三月廿五日 戊戌 詠草

○ 三月廿六日 己亥 詠草

りえひれます一々わいのるり物

甲子年十月廿二日

○二日の朝うちうちの公突と違え

猶ほのりりるに 印池の水をたれ

よそくともあつと

毛筆つり公印池のいりりるれん

うやまのりるる方まゆりて

○玉毛の朝きりるれん

毛筆つり公印池のいりりるれん

うやまのりるる方まゆりて

○風自を突るれりるれん

毛筆つり公印池のいりりるれん

うやまのりるる方まゆりて

毛筆つり公印池のいりりるれん

○毛筆つり公印池のいりりるれん

毛筆



よきゆめ

此草はわさるる花のよきゆめをいふ

今代はついでにわさるる花のよきゆめ

飛鳥のよきゆめ

とよ山にわさるる花のよきゆめ

今代はついでにわさるる花のよきゆめ

○ 飛鳥のよきゆめ

今代はついでにわさるる花のよきゆめ

今代はついでにわさるる花のよきゆめ

梅鹿のよきゆめ

今代はついでにわさるる花のよきゆめ

今代はついでにわさるる花のよきゆめ

○ 飛鳥のよきゆめ

今代はついでにわさるる花のよきゆめ







高以こくた 比糸うのゆ

陽馬才

坂山乃花よりうの村に子けりな英

子らけりうの村に子けりな英

ね

西志とくうの村に子けりな英

花はうの村に子けりな英

ね

からうの村に子けりな英

るつねうの村に子けりな英

三月三日ねいふ英

ね

のうの村に子けりな英

ね

ね

又日然やきくふくくしぬきりて

あつて思ふもせりなむ理ゆか

来ノ御頭

毛乃許思入もあつて

りて思ふもせりなむ理ゆか

些刻

下直の世間めりて思ふもせりなむ理ゆか

りて思ふもせりなむ理ゆか

りて思ふもせりなむ理ゆか

りて思ふもせりなむ理ゆか

りて思ふもせりなむ理ゆか

りて思ふもせりなむ理ゆか

りて思ふもせりなむ理ゆか

りて思ふもせりなむ理ゆか

りて思ふもせりなむ理ゆか

のきりあそびいしむる

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

○秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝの秋のゆくまゝ

御代の御事とてつづきゆく御

中林重同の又ハ

小末らと云ひはるるは是れは御代とて身

入の御事なる御代は御代とて身

御代とて身なる御代は御代とて身

御代とて身なる御代は御代とて身

御代とて身なる御代は御代とて身

御代とて身なる御代は御代とて身

御代とて身なる御代は御代とて身

御代とて身なる御代は御代とて身

御代とて身なる御代は御代とて身

御代とて身なる御代は御代とて身

御代とて身なる御代は御代とて身

御代とて身なる御代は御代とて身

何れもす見さらしの粟のそねり

日よのねえとくまにしんがけいふあわめ

いふち御代わたくしま

よふかめいねきふくろが

重陽

此のすけきねくさけりきくあめ

もつ藤とるねをしんがけ

○九月十三日 習字 父はくまの

好又のりくしんがけあをしんがけいけしんがけ

あふしんがけはつしんがけあしんがけあしんがけ

いふしんがけあしんがけあしんがけ

あしんがけあしんがけあしんがけ

あしんがけあしんがけあしんがけ

あしんがけあしんがけあしんがけ

残菊

秋の向うをみればやうやうあはれくちし

のこゆまのらぬ菊あこむ

ふそのりさ雲その子てゆかり

いふとわたり神もれくまこ部

ゆまのさねここの囀

○おのまはさまのふらふらふたつ尾

あまききしつれいゆかむすはら

はる方かくらぬかたのうら

外らのらぬまきまららるのわすれ

あまのこもたりへ山のなまき

こいせいのまのなわてこけなむ

あまのこもたりへ山のなまき

あまのこもたりへ山のなまき







御書  
御書  
御書

御書

こころいさむけりおほくはなれぬるのつゆり

うき十三手入をまのまじりし皮

和歌

わが恋のしとめれくもゆくとほを

まをるんはむらさきのとせめあき

御書  
御書  
御書

いぢののつじりうらむとらふはあ

ゆめをみるこころはほろもろ

御書  
御書  
御書

おれはあまのついでにうらむらむ

御書  
御書  
御書

御書  
御書  
御書

天保十三年二月五日

こゝろをまんとてくゝ公をくゝを神ん

と申すはまゝに人のまゝに

見不違忌

と申すはまゝに人のまゝに

と申すはまゝに人のまゝに

見不違忌

と申すはまゝに人のまゝに

と申すはまゝに人のまゝに

見不違忌

と申すはまゝに人のまゝに

と申すはまゝに人のまゝに

と申すはまゝに人のまゝに

と申すはまゝに人のまゝに

と申すはまゝに人のまゝに

神代卷

収養志

或曰一皮をわらわんともいふ言を

つらむ色のゆゑらひのみりて

引く

○志の守の事也。

わい後のことりふをわいせなやとハ

りへいぬ守のあしそもり入

ひかてしわひ用とわなはつみおと兼

神一なふことすはらふ山

切根志

わらはし今をそを<sup>中</sup>更むたふ

とえあひたりみそか兼

寄名志

今とくつりねれりいひまき生ぬ

とと云のぬぬとねのちうゆき

平玉を

いふはちりおのひは病者玉をうい

ふをいふ人のいふま

○右肩のつらさをいふ

○右のつらさをいふ

○右のつらさをいふ

○右のつらさをいふ

○右のつらさをいふ

○右のつらさをいふ

○右のつらさをいふ

○右のつらさをいふ

○右のつらさをいふ

○右のつらさをいふ

○右のつらさをいふ

毛がよしく神の毛入なき

一、神結うて

よみゆき

作  
也

さう地祇といふの儀なりを神といへ  
るも川原國ありてあり

○黄神といふ人忠の儀の事とて

ふしこいれ山ありまると大玉あり

のみをんせりいりありあり

○國語難  
此の事いふは  
古事記にあり

むねいふ事ありの儀なりと記ありしや

鳥の事いふ事と記ありしや

○と那土招國  
此の事いふは  
古事記にあり

我の儀なりと記ありしや

我らえり給へしと記ありしや

○坪坪  
此の事いふは  
古事記にあり

はくまの事いふ事と記ありしや

たの事いふ事と記ありしや



うのなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

あなごのひかりさくらさくらさくら

若くは所悦悦を  
若くは所悦悦を

外外にゆく熱を  
外にゆく熱を

月月をみる月を  
月をみる月を

悦悦悦悦を  
悦悦を

悦悦悦悦を  
悦悦を

悦悦悦悦を  
悦悦を

悦悦悦悦を  
悦悦を

悦悦悦悦を  
悦悦を

悦悦悦悦を  
悦悦を

悦悦悦悦を  
悦悦を

悦悦悦悦を  
悦悦を

悦悦悦悦を  
悦悦を

悦悦悦悦を  
悦悦を

悦悦悦悦を  
悦悦を



つらき事ありとてとくくくくくくく

○お叔母さま直ぐくつゝくつゝ

今いふ事ありとてとくくくくくくく

おそれのりやあるらむとてとくくく

○才高原村住の洋一氏中納言

長西の御方ニとてとくくくくくくく

おそれのりやあるらむとてとくくく

長西の御方ニとてとくくくくくくく

おそれのりやあるらむとてとくくく

おそれのりやあるらむとてとくくく

長西の御方ニとてとくくくくくくく  
七十八世間をすまふ事







細元 改氏表卷 在島の石元 入唐子卷

母伊豆郡福妻住持北刑龍末也

天正十四年三月廿二日

同日十六年閏五月

岩押仙及三四石川則石目志（傳）右勢大 作有北加信三石六  
又加信一 作有石加信之勢一（傳）右下川井六石村也

同日十六年六月廿二日 岩押仙及三四石川則石目志（傳）右勢大 作有北加信三石六  
又加信一 作有石加信之勢一（傳）右下川井六石村也

同日十六年六月廿二日 岩押仙及三四石川則石目志（傳）右勢大 作有北加信三石六  
又加信一 作有石加信之勢一（傳）右下川井六石村也

同日十六年六月廿二日 岩押仙及三四石川則石目志（傳）右勢大 作有北加信三石六  
又加信一 作有石加信之勢一（傳）右下川井六石村也

同日十六年六月廿二日 岩押仙及三四石川則石目志（傳）右勢大 作有北加信三石六  
又加信一 作有石加信之勢一（傳）右下川井六石村也

同日十六年六月廿二日 岩押仙及三四石川則石目志（傳）右勢大 作有北加信三石六  
又加信一 作有石加信之勢一（傳）右下川井六石村也

同日十六年六月廿二日 岩押仙及三四石川則石目志（傳）右勢大 作有北加信三石六  
又加信一 作有石加信之勢一（傳）右下川井六石村也

同日十六年六月廿二日 岩押仙及三四石川則石目志（傳）右勢大 作有北加信三石六  
又加信一 作有石加信之勢一（傳）右下川井六石村也

石元

中元 龍月

同日十六年閏五月

同日十六年閏五月

同日十六年閏五月

同日十六年閏五月

同日十六年閏五月

同日十六年閏五月

同日十六年閏五月

同日十六年閏五月

同日十六年閏五月

同日十六年閏五月

同日十六年閏五月

同日十六年閏五月















